

生殖機能の温存の支援を行う体制

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	7
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	2
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	2

- 1 化学療法、移植治療に対する生殖機能温存支援として、卵巣凍結保存を順天堂大学医学部附属浦安病院産婦人科と連携して行っている。
- 2 外科治療に対する生殖機能温存支援として、放射線照射野外への卵巣移動術の適用を検討している。
- 3 放射線治療に対する生殖機能温存支援として、性腺への遮蔽の検討および陽子線照射への適用を検討している。陽子線照射に関しては筑波大学病院、静岡県立がんセンター、国立がん研究センター東病院と連携をしている。
- 4 長期フォローアップ外来では、フォローアップ項目の中に小児内分泌専門医・内分泌内科専門医による性腺機能検査や婦人科専門医、泌尿器科専門医によるフォローアップが可能である。
- 5 長期フォローアップ外来では、女性小児がん経験者の方を対象に生殖機能の温存支援を行う体制の確立を目的に方を対象に、妊孕性について調べる臨床研究(平成30年度科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究 課題番号:18K15688「女性小児がん経験者の妊孕性についての研究」)を行っている。
- 6 産婦人科では、それぞれの主科に適応の判断があれば、生殖担当医へ連絡する体制が確立している。(下記参照)
- 7 当病院は、特定非営利活動法人日本がん・生殖医療学会の未受精卵子凍結施設である。

がん治療における妊孕性温存について

主科にて適応の判断



産婦人科生殖担当医へ
連絡、受診